

市民が創る「緑の党」が、めざす社会とは？

～ 脱原発、公正で多様性のある社会を求めて ～

9月22日(土・祝) 午後1時30分開場・2時～4時 豊中市岡町「福社会館」

今年7月28日「緑の党」が日本でも発足しました。

ここ大阪に住む私たちもまた「緑の大阪」を立ち上げ、この市民が創る「緑の党」を支えていきたいと思っています。

そこで、この「緑の党」がどのような課題を追求し、どのような政策で、どのような組織形態で、国会や市民社会でどう活動していくのかなどについての説明会を開きたいと思います。

脱原発と、誰でもが伸びやかに生きれる社会をめざして、どうぞ、お誘い合わせの上、気軽にご来場ください。託児はありませんが、お子様連れでどうぞ！！

コンサート ≫



古川 豪さん

1950年、京都生まれ。関西フォークの隆盛期に歌い始める。70年代から、原発の危険性と脱原発の生活・政治スタイルに着目し、脱原発の歌を歌い続ける。
1981年、原水禁世界大会で「原発に未来なし」を歌い、原子力の平和利用と言われた「原子力発電」に初めて疑問を投げかける。現在もコンサート活動中。

「緑の党」説明会



「緑の党」共同代表 長谷川羽衣子

京都生まれ。奈良女子大学卒、上智大学大学院修了。福島原発事故を受け、持続可能な環境・エネルギー政策の研究・実現を目指すNGO「e-みらい構想」を設立。「バイバイ原発3.10京都」の呼びかけ人。大飯原発再稼働問題では、原発のない地域経済を住民と共に考えるため「もうひとつの住民説明会」を開催。共著に『原発ゼロ』（かもがわ出版)など。

私たちは、石油と原子力に象徴されるエネルギー大量消費型の文明に、踊り、踊らされてきました。かけがえのない太陽と地球の贈り物によってこそ“いのち”が育ち、輝くことを忘れ去りおカネで計れるものだけを尊ぶような感違いを続けてきました。その結果、豊かな森・川・大地・海は破壊され、自然は悲鳴をあげています。わずか「1%」の人びとが世界の富を独占し、残りを「99%」の人びとが奪い合うという歪んだ経済成長の仕組みによって、至るところで格差が広がりました。勝ち負けを問わず、人びとは不安と閉塞感の中にいます。

そこに起きた“3・11”。

私たちは多くのものを失ってやっと気づきはじめました。プロの政治家・官僚・専門家に重要な決定を預けてしまう「おまかせ民主主義」が、最悪の事態を招いていることを。(緑の社会ビジョンより抜粋)

資料代 500円(学生・低所得の方200円、介助者無料)

主催「緑の大阪」(HP: <http://www016.upp.so-net.ne.jp/midorioosaka/index.html>)「緑の大阪」で検索してください。

連絡先 : TEL&FAX 06-6836-7542 山口(午後7時以降)